

令和7年度

学島小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業展開の工夫
- ②ICTを効果的に活用した授業展開の工夫
- ③自主的に取り組もうとする「家庭学習」の習慣化

校長

片山 富造

学力向上推進員

吉田 和佳子

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能は概ね身に付いている児童は多い。 ●読書や日常生活の経験差から、語彙力が低く、文章を読み取る力や書く力が弱い児童がいる。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付け、既習の学習や他教科と関連付けて考えることができる。 ・さまざまなジャンルの読書に親しみ、言語感覚を豊かにし、正しい言葉で文章を書いたり読み取ったりすることができる。	・漢字や計算、音読を継続的に指導し、小テストを定期的に実施する。 ・文章を正確に読む力、語彙力、表現力を身につけさせるため、読書や新聞に親しませる機会を設ける。 ・感想や一言日記など短い文で書く活動を継続的に行う。	・読書に親しみ、素早く読むことになれたり、文章全体の構成や内容を捉えたりする経験を積み重ねる。そのために、毎週金曜日の朝学習を読書活動にする。また、月に2回、宿題を読書だけにし、じっくり読書に浸る時間を作る。(家庭読書の日)	・小テストの実施日固定によるルーティン化と目標の可視化により、基礎的・基本的な知識・技能を定着させることができた。 ・低学年の一人読みへの円滑な移行や家庭読書の定着により、多様なジャンルへ挑戦する意欲が高まり、知識獲得の習慣化が進んだ。 ・新聞活用による社会情勢への関心喚起と、タブレット活用による表現への心理的ハードルの低減により、新たな知識の獲得と表現技能の向上が図られた。	・小テストにおいて週に1回以上実施するというルーティン化を学校全体で統一し持続可能な仕組みにする。 ・文章の読み込み力やイメージ化の力を国語科だけでなく算数科の文章読解や社会科の資料読解などにどうつなげるかを具体化する。 ・記述が苦手な児童の支援について、ICTを活用しつつ、個々の習熟度に合わせたスモールステップの課題設定をさらに推進する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○根拠や理由を明確にしなが、自分の考えを発表しようとする児童は多い。 ●課題解決に向けて、自分の考えは表現できるようになってきたが、互いの意見を整理したり、比べたりすることは難しい児童もいる。	・文章や表、グラフなどから自分で情報を読み取り、整理したり考えを深めたりすることができる。 ・課題解決に向けて、根拠や理由を明確にしなが自分の意見を表現し、対話を通して、互いの意見を整理したり比べたりすることができる。	・分かったことや考えたことを思考ツールを活用してまとめ、設定した条件をもとに文章を書いたり、発表したりする活動を増やす。 ・ペアやグループ討論の場を設定し、話型を意識させながら、考えやその理由を問うたり述べたりするやりとりができるだけ長く続くように会話する機会を増やす。	・文章の推敲指導を取り入れ、修飾語についての理解を深める。 ・文章に、意図する部分に線を引かせながら読ませる。 ・児童同士で回答の意味や、根拠を問う場面を作り、お互いに学び合える授業づくりをする。	・ICTの活用による推敲や、相互交流を通じた相手意識のある表現活動、例文の視写指導を組み合わせることで、正しい構成で文章を整える技能と意欲が向上した。 ・繰り返し読み込み線を引きながら精読する活動の定着により内容理解の精度が向上し、全体発表での他者との意見交流を通じて学びを深めることができた。	・対話の質の向上のため、各教科に応じた話型を全校で活用する。 ・根拠を言語化する力を育成するため、ベン図やマインドマップなどの思考ツールを継続的に活用し、考えのプロセスを可視化する訓練をする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中の課題や宿題など、与えられた課題に対してまじめに取り組むことのできる児童が多い。 ●自分の学習課題を把握し、計画的・効果的に家庭学習に取り組むことには課題がある。	・自分の学習状況や興味関心に応じた課題を見つけ、計画的に学習することができる。 ・ノートや端末等、学習内容に応じたツールを活用して、自主的に学習に取り組む、個別最適な学びができる。	・各教科での課題設定や提示の工夫をして、何ができるようになるのか、どうやって課題解決をするのかを意識させて授業に向かわせる。 ・学校での学習で理解が不十分な所を児童がつかみ、その内容に対して、必要な学習の方法を伝える機会を作る。	・基本的な生活習慣(鉛筆削り・明日の準備・時間厳守・あいさつ・身の回りの整とんなど)の定着を重視し、主体的に学ぶ姿勢や集中力を高める。 ・自分の理解度や課題を捉えさせるため、振り返りやノート指導を重視し、主体的な学習態度を促す。 ・家庭との連携をとりながら、月に一度学習目標を立て、学力向上につなげる。	・各種チェックシートを活用した『見える化』により振り返りの習慣化と学習意欲が向上した。 ・ICTドリルを活用した個々の習熟度に応じた自律的な学習と、低学年からの時間意識の徹底により、集団生活の基礎を確立しながら主体的に学ぶ姿勢が強化された。	・学習目標の設定において家庭の協力は得られているが、立てた目標を意識し続ける仕組みの工夫や、なぜそれが必要か、という価値理解を促す言葉がけを意識する。 ・基本的な生活習慣化の個人差に対して、チェックリストを細分化したり、スモールステップでの成功体験を積み重ねる支援を継続する。